

壊れゆく“若者たち”

File.32 デジタル症候群(32) ~仮想通貨が描く未来

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

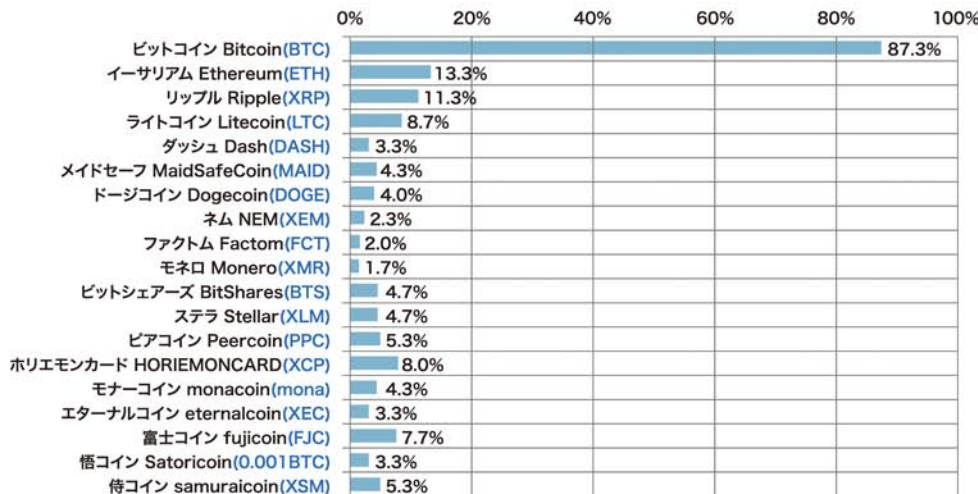
仮

「仮想通貨といえば、多くの人は「ビットコイン」を思い浮かべると考えられます。中には仮想通貨Ⅱ

ビットコインと認識している人も多いのではないのでしょうか。実は、小規模なものまで含めると、世界には3000以上の仮想通貨が存在します。これは全世界で200種類にも満たない実在の通貨を大きく上回り、何とも違和感を抱いてしまいます。仮想通貨の代表的なものとして、ビットコインに続く市場規模を持つライトコインや、Googleが出資しているリップルコイン、今年に入って、三菱東京UFJ銀行が独自の仮想通貨である「MUFICOIN」を打ち出したことも大きな話題になりました。

仮想通貨のメリットは「海外送金が容易」「手数料がクレジットカードや銀行に比べて、圧倒的に安い」「経済の影響を受けにくい」という点が挙げられます。一方でデメリットもあります。「詐欺などに対する補償が薄い」「決済を利用できるお店が少ない」「調節が難しく、バブルや暴落のリスクを伴う」という部分を併せ持ちます。普段の生活の中では手を出しづらい仮想通貨ですが、中国の富裕層の中では、金(きん)や不動産に並ぶ、資産分散の

一つとなつていくようです。これには背景があり、中国は国の制度上、人民元をドルやユーロに簡単に換えられない規制が敷かれています。ところが、この規制を仮想通貨は超えてしまえるというところで、2014年にビットコインが爆買いされるといふ事態に発展したので。



仮想通貨の購入や利用に興味がある20代~60代の男女300人に行った「仮想通貨に関する意識調査」株式会社バード提供(N=300)

この仮想通貨に関しては、今年の2月に投資詐欺のニュースも出ており、日本国内においては何かとネガティブな話題が先行しています。仮想通貨はインターネットで管理されているので、ハッキングの被害に遭えば、突然全てを失うことも考えられます。また、国境の概念がないので、多くの人が利用するようになれば、世界的に大きな問題へと発展する可能性もあります。日本ではまだまだ認知は低く、すぐに広がるとは思えませんが、今後の国の情勢次第では、自身の資産を確保するための選択肢として、仮想通貨を持つ人は増えてくるかもしれません。

Profile

東京都大田区生まれ。
英国ウェールズ大学MBA(経営管理修士)。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
㈱グッドクロス 取締役 COO
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
beecall 03-6420-2088
[http://www.bcall.jp]

